

在宅医療でよく用いられる薬剤とその注意点：神経系に作用する薬剤

薬樹株式会社・薬剤師 横山 寛

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
パーキンソン病治療薬	・ネオドパ+カルビドパ合剤（ネオドパストン配合錠 [®] 、メネシット [®] ） ・ネオドパ+ベンセラジド合剤（マドパー [®] ）	・精神症状 ・ふらつき ・突発的な睡眠 ・悪心・嘔吐	・突発的な睡眠を起こす場合があるため注意する。
	・カベルゴリン（カバサル [®] ）	・幻覚 ・悪心・嘔吐 ・妄想 ・むくみ ・突発的な睡眠	・突発的な睡眠を起こす場合があるため注意する。
アルツハイマー型認知症治療薬	・ドネペジル塩酸塩（アリセプト [®] ）	・悪心 ・食欲不振 ・ふるえ ・発疹	・3 mgの少量から始めて1～2週間後に5 mgに増量する。
	・メマンチン塩酸塩（メマリ [®] ）	・痙攣 ・攻撃性 ・悪心・嘔吐 ・めまい	・中等度～重度の方に使われる。
抗てんかん薬	・フェニトイン（アレビアチン [®] ）	・眠気 ・ふらつき ・発疹 ・歯肉増殖 ・手のふるえ	・眠気などがあるため日常生活に注意する。
	・フェノバルビタール（フェノバル [®] ）	・眠気 ・ふらつき ・発疹 ・食欲不振	・眠気などがあるため日常生活に注意する。
	・バルプロ酸ナトリウム（セレニカ [®] 、デバケン [®] ）	・眠気 ・発疹 ・ふるえ	・眠気などがあるため日常生活に注意する。
	・カルバマゼピン（テグレート [®] ）	・肝機能障害	
	・ゾニサミド（エクセグラン [®] ）	・眠気 ・ふらつき ・発疹 ・視覚異常	・眠気などがあるため日常生活に注意する。
	・ガバペンチン（ガバペン [®] ）	・眠気 ・ふらつき ・発疹 ・めまい	・他のてんかんの薬と一緒に使われる。

●抗精神病薬

非定型抗精神病薬	・リスペリドン（リスパダール [®] ） ・オランザピン（ジプレキサ [®] ） ・クエチアピン fumarate（セロクエル [®] ）	・悪性症候群 ・肝機能障害 ・高血糖 ・ジスキネジア	・血糖値の上昇により糖尿病性ケトアシドーシスや糖尿病性昏睡に至る場合があるため十分注意する。
	高力価群：ハロペリドール（セレネース [®] ）、プロクロルペラジン（ノバミン [®] ） 低力価群：クロロプロマジン（ウインタミン [®] 、コントミン [®] ）	・錐体外路症状（手のふるえなど） ・口渇 ・便秘 ・眠気 ・血圧低下 ・口渇	・ふるえなどの副作用が起きる場合があるため日常生活に注意する。 ・眠気や起立性低血圧が起きる場合があるため日常生活に注意する。

理学療法ジャーナル 48巻 9号 付録

在宅医療でよく用いられる薬剤とその注意点：鎮痛、抗炎症、免疫・アレルギー系に作用する薬剤

薬樹株式会社・薬剤師 横山 寛

●鎮痛・抗炎症薬

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
コキシブ系	・セレコキシブ（セレコックス [®] ）	・消化性潰瘍 ・アナフィラキシー ・ショック ・肝機能障害	・胃に負担がかかることがあるが、他の薬に比べて比較的消化器への副作用が少ない。
神経障害性疼痛治療薬	・プレガバリン（リリカ [®] ）	・ショック ・めまい ・アナフィラキシー ・傾眠	・めまいや傾眠に注意する。

●炎症・免疫に作用する薬剤

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
副腎皮質ホルモン薬（ステロイド剤）	・プレドニゾン（プレドニン [®] ） ・ベタメタゾン（リンデロン [®] ）	・感染症の増悪 ・骨粗しょう症 ・消化性潰瘍	・内科領域から外科領域、皮膚科、眼科領域などさまざまな領域で用いられる。
抗リウマチ薬	・サラズルファピリジン（アザルフィジン EN [®] ）	・消化性潰瘍 ・肝機能障害 ・血液障害 ・腎障害	・リウマチの治療に比較的初期段階から使われる。
	・ブシラミン（リマチル [®] ）	・血液障害 ・肝機能障害 ・間質性肺炎 ・黄色爪	・効果が現れるまで4～8週間の時間を要する。
	・メトトレキサート（リウマトレックス [®] ）	・血液障害 ・肝機能障害 ・間質性肺炎 ・感染症	・リウマチの治療に使われる薬の中でも有効性が高いと言われている。

●アレルギーに作用する薬剤

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
抗ヒスタミン薬	・クロルフェニラミンマレイン酸塩（ポラミン [®] ） ・シプロヘプタジン塩酸塩（ベリアクチン [®] ）	・眠気 ・口渇 ・痙攣 ・注意力低下	・緑内障前立腺肥大症を悪化させる恐れがあるため注意する。
抗アレルギー薬			
第2世代抗ヒスタミン薬	・フェキソフェナジン塩酸塩（アレグラ [®] ） ・エビナスチン塩酸塩（アレジオン [®] ） ・セチリジン塩酸塩（ジルテック [®] ） ・レボセチリジン塩酸塩（ザイザル [®] ） ・ロラタジン（クラリチン [®] ）	・眠気 ・注意力低下 ・口渇 ・肝機能障害	・従来の抗ヒスタミン薬に比べて比較的眠気が少ないと言われている。
ロイコトリエン拮抗薬	・ブランドカスト水和物（オノン [®] ） ・モンテルカストナトリウム（キプレス [®] ）	・ショック ・肝機能障害 ・アナフィラキシー ・悪心	・気管支喘息の治療に使われることが多い。

理学療法ジャーナル 48巻 9号 付録

2026/09/25 20:01:11

在宅医療でよく用いられる薬剤とその注意点：神経系に作用する薬剤

薬樹株式会社・薬剤師 横山 寛

●催眠・鎮静・抗不安薬

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
短期作用型	・ トリアゾラム（ハルシオン®） ・ ソピクロン（アモバン®） ・ エスゾピクロン（ルネスタ®） ・ ゾルピデム（マイスリー®）	・ 一過性健忘 ・ もうろう状態 ・ 眠気 ・ 依存性	・ 作用時間が6 時間未満と短いものの、朝方まで眠気が残る場合があるため注意する。
中期作用型	・ プロチゾラム（レンドルミン®） ・ リルマザホン塩酸塩水和物（リスミー®） ・ フルニトラゼパム（サイレース®）		・ 作用時間が12 時間未満と、比較的長い、作用が朝まで残ることがあるため注意する。
長期作用型	・ エスタゾラム（ユーロジン®） ・ ニトラゼパム（ベンザリン®）		・ 作用時間が24 時間未満と、長時間作用する。
超長期作用型	・ ハロキサゾラム（ソメルリン®） ・ クアゼパム（ドラル®）		・ 作用時間が30 時間以上と、かなり長時間に作用する。
抗精神病薬			
非定型抗精神病薬	・ リスペリドン（リスパダール®） ・ オランザピン（ジブレキサ®） ・ クエチアピンフマル酸塩（セロクエル®）	・ 悪性症候群 ・ 肝機能障害 ・ 高血糖 ・ ジスキネジア	・ 血糖値の上昇により糖尿病性ケトアシドーシスや糖尿病性昏睡に至る場合があるため十分注意する。
定型抗精神病薬	高力価群：ハロペリドール（セレネース®）、プロクロルペラジン（ノバミン®）	・ 錐体外路症状（手のふるえなど） ・ 口渇 ・ 便秘	・ ふるえなどの副作用が起きる場合があるため日常生活に注意する。
	低力価群：クロロプロマジン（ウインタミン®、コントミン®）	・ 眠気 ・ 便秘 ・ 血圧低下 ・ 排尿困難	・ 眠気や起立性低血圧が起きる場合があるため日常生活に注意する

●抗うつ薬

選択的セロトニン再取り込み阻害剤	・フルボキサミンマレイン酸塩（デプロメール®） ・パロキセチン（パキシル®）	・悪心・嘔吐 ・痙攣 ・めまい	・不眠 ・眠気 ・ショック	・服用初期に悪心・嘔吐などの副作用が出る場合がある。
セロトニン、ノルアドレナリン再取り込み阻害剤	・ミルナシプラン塩酸塩（トレドミン®） ・デュロキセチン塩酸塩（サインバルタ®）	・悪心・嘔吐 ・不眠 ・痙攣 ・めまい	・不眠 ・眠気	・服用初期に悪心・嘔吐などの副作用が出る場合がある。
ノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性薬	・ミンタゼピン（リレックス®, レメロン®）	・悪心・嘔吐 ・痙攣 ・めまい	・不眠 ・眠気 ・肝機能障害	・回復後もしばらく服用を続ける必要がある。
三環系うつ薬	アモキサピン（アモキサン®）、アミトリプチリン塩酸塩（トリプタノール®）	・めまい ・不眠 ・眠気	・排尿困難 ・口渇 ・便秘	・回復後もしばらく服用を続ける必要がある。

理学療法ジャーナル 48巻 9号 付録

在宅医療でよく用いられる薬剤とその注意点：解熱・鎮痛・抗炎症薬

薬樹株式会社・薬剤師 横山 寛

系統	主な薬（商品名）	主な副作用	備考（注意点）
ピリン系解熱鎮痛薬	・イソプロビルアンチピリン ・アリルイソプロビルアセチル尿素 ・アセトアミノフェン ・無水カフェイン（SG 配合顆粒®）	・肝機能障害 ・ショック ・アナフィラキシー ・喘息発作 ・消化性潰瘍	・ピリン系の薬にアレルギーがある方は服用できない。 ・胃への負担に注意する。
非ピリン系解熱鎮痛薬	・アセトアミノフェン（カロナール®）		・胃への負担に注意する。
	・アスピリン ・ダイアルミネート ・炭酸マグネシウム（バファリン® 配合錠 A330）	・消化性潰瘍 ・ショック ・アナフィラキシー ・眠気 ・肝機能障害	・胃への負担に注意する。 ・血栓防止に使われる物とは用量が異なるため注意する。
	・サリチルアミド ・アセトアミノフェン ・無水カフェイン ・メチレンジサリチル酸プロメタジン（PL 配合顆粒）		・緑内障前立腺肥大症を悪化させる恐れがあるため注意する。

●非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）

アリール酢酸	・ジクロフェナクナトリウム（ボルタレン®）	・消化性潰瘍 ・ショック ・アナフィラキシー ・喘息発作 ・肝機能障害	・胃への負担に注意する。
プロピオン酸	・イブプロフェン（ブルフェン®） ・ロキソプロフェンナトリウム水和物（ロキソニン®）		
オキシカム系	・アンピロキシカム（フルカム®） ・メロキシカム（モービック®） ・ロルノキシカム（ロルカム®）		・胃への負担に注意する。 ・アンピロキシカム、メロキシカムは作用時間が長く1日1回の服用である。
塩基性抗炎症薬	チアラミド塩酸塩（ソランタール®）	・食欲不振 ・ショック ・アナフィラキシー	・消炎、鎮痛効果を有するが、解熱効果はない。